



# 西幼だより

第4号

令和6年6月25日  
新潟市立西幼稚園

【教育目標】  
しなやかに  
たくましく



(西幼稚園 HP)

ブログも見てね!

## あせらず、じっくりと

園長 渡邊 舞

子どもたちは、様々な「もの、ひと、こと」とのかかわりの中で、はじめて出合（会）うことの連続です。そのたびに「えっ!」と驚いたり「えっ?」と不思議に感じたり、自分なりにじっと考えたりする姿があります。



先日、昨日まで泳いでいたオタマジャクシの足が生え、急にピョンピョン飛び跳ね始めた姿に、驚きを隠せない年少組のお友達がいました。「えっ!」と言って、そのあとの言葉が出ず、「これは一体何がどうしたんだろう?」と言わんばかりの表情になり、そばにいた友達と無言で顔を見合わせていました。その後しばらく、じっと考えるようなしぐさでオタマジャクシを見つめていました。

砂場では、連日穴を掘り、プールやお風呂と言いながらダイナミックに遊んでいます。水をたっぷり穴に溜めたい年長組のお友達は、何度もバケツで水を流し入れていましたが、ふと見るとどんどん水が減っていく現象に出会いました。そしてついに水が全て消え、「えっ?」と一瞬立ち止まる年長さんの姿がありました。次の日には直接水を流し続けて水を溜める方法に気付くのでした。そして、後日、今度は雨どいを使って水を流す方法にチャレンジしていました。このとき、雨どいに高低差はなく、水が思っていたようには流れません。その事実、立ち止まって考える姿がありました。

オタマジャクシがカエルへになる過程の様子や水が流れるために必要な高低差等の知識について、スマホやパソコンなど、様々な間接的な方法ですぐに得ることが容易な時代です。しかし、子どもたちにとって、直接体験の中で「なぜ、どうして」と自分なりに考えを深める過程こそ、本当の学びがあると考えます。自ら直接、体験し、得た知識は、その先の生活で取り入れたり、別の場面で思い出し、関連付けて考えるなど、様々な課題に向き合う力にもつながっていきます。



だからこそ、子どもたちの「え!」と驚いたり「え?」と不思議に感じたりする場面で、答えを急がず、あせらず、じっくりとそのものごとに向き合わせていきたいものです。早く答えにたどり着いてほしいと思いがちですが、子どもたちの力をまずは信じるのが重要です。そして、そこに多くの言葉はいりません。子どもたちと同じ目線で、一緒に感動しながら、自ら考え、あきらめずにものごとに向き合う子どもたちにあせらず、じっくりと寄り添っていくことが大事だと考えます。

水を流れやすくするために、年長さんはどのように考え、どのように答えを見つけていくでしょう。「うまいかないな」「こうしてみたらどうだろう」と試行錯誤をする中で、自分の力で考え、自分なりの方法にたどり着くことを信じ、これからも見守りたいと思います。思いもよらぬ多様な答えにたどり着くかもしれません。あせらず、じっくりと…子どもたちの成長を支えていきます。